

B群とC群の群れ間交流について

山中に食べ物が少ない冬の間、B群、C群ともにサル寄せ場に滞在することがあります。

本来、群れが違えば交わることがないのですが、微笑ましい光景を目撃しましたので写真と共に紹介します。

右の写真の2頭のサルは、毛づくろいをしているサルがC群のメスサル『ゼンシン』で、毛づくろいを受けているサルがB群のオスサル『マルオ』です。群れが違ふサルたちの毛づくろいは貴重な写真になりました。マルオは数年前までC群に所属していたこと、また性格が優しく、誰とも仲良くできるタイプのサルであることも影響しているのかもしれない。



新入!

えんがわ スタッフの猿側日記 高崎山のサルを観察して



大城 高樹

令和5年4月から高崎山で勤めはじめ、サルさまざまな魅力を見ました。

サル寄せ場に集まるサルたちは、野生とは思えないような穏やかな表情を見せてくれます。しかし、エサを目の前にすると途端に真剣な眼差しに変わります。そして、エサ撒きの度に小競り合いを起こすのは、ほとんどがメスサルです。また、群れ内のケンカを見つけるや否や仲裁に駆けつける大人のオスサルもいれば、知らん顔をするオスサルもいて二ホンサルにも個性があることがわかりました。

さらに高崎山では、野生の二ホンサルでありながら人をあまり恐れないことから、子サルの成長の様子を観察しやすいと感じました。子サルが群れの中心部で無邪気に遊ぶ姿や母親に抱きついて甘える姿、職員との靴紐を興味津々に見つめる姿などを教えてください。子サルが少し成長すると、子サル同士で集まり、オスの子サルはマウンティングをしたり、メスの子サルは年上の子が年下の子を抱えて子守の真似事をしたり、成長の過程を見せてくれます。

このように、高崎山では二ホンサルの生活の様子を目の前で観察することができます。今後も、高崎山の二ホンサルの魅力を見つけていきたいと思います。

大分市内の小学生・中学生は入園無料です。学生証などを見せて入園してください。

ご意見・ご要望をおまちしています。



高崎山自然動物園

〒870-0802 大分県高崎 3098-1
TEL097-532-5010 FAX097-536-2500

E-mail: info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

高崎山通信

-Takasakiyama Public relations magazine-



高崎山
自然動物園
2023. 夏号
No.6

涼しい風...来ないかな



写真提供：おがゆ様



70th Anniversary



写真
募集中

皆さんの撮影したステキなお写真で表紙を飾ってみませんか？
なお、お写真・データはお返してできませんので、ご了承ください。

見てみて!

スタッフブログ・フェイスブック・Instagram・Youtubeで
高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。



◆ 高崎山B群第19代第1位に「ゴロー」就任 ◆

令和5年5月26日、B群第19代第1位「ゴロー」の就任式を行いました。

メスザルが初めて群れの第1位になったことで注目を浴びた前第1位の「ヤケイ」は、序列には入りませんが、現在もメスの中では最も上位であることには変わりありません。

第1位の交代となった経緯については、2023年に入りB群第4位だった「ゴロー」が徐々に力をつけ、第2位「ナンチュウ」と第3位「ハジメ」がゴローに一目置くようになりました。そして、当時第1位の「ヤケイ」ですら「ゴロー」に遠慮する様子が見られるようになりました。しかし、冬の間の発情期にはサル同士の関係が不安定になりやすく、一時的に順位などの関係が崩れ、発情期が終わると元に戻ることもあるため、「ヤケイ」と「ゴロー」の関係については、しばらくの間注視をすることとしました。

その結果、発情期が終わり、5月になっても「ゴロー」が「ヤケイ」より優勢であったため「ゴロー」を第1位としました。

「ゴロー」は、高崎山を代表するイクメンザルとして、多くの方に人気があるサルです。目の鋭さ、毛並みの美しさ等、見た目もさることながら、尻尾を反らせて悠々と歩く姿は迫力を感じます。

B群第1位になると、ゴローは群れ内で何か騒ぎが起きるとすぐに駆け付けるようになりました。ある日、ゴローがカラスを追い払ったことがありました。その時、何かに反応したゴローは、走るでもなくゆっくり山中に入っていました。様子を見に行くと、ゴローは1頭で3羽のカラスと争っていました。ゴローは、地面からだけでなく、木を登ったり降りたりしながらカラスに攻撃していましたが、カラスもなかなか引きません。3羽のカラスがゴローの周りを飛びながら隙をついて攻撃に出ます。結局20分ほどの攻防を続け、ついにゴローがカラスを追い払いました。サルはカラスの存在に激しく反応する場合と、全く反応しない場合がありますが、その時は、カラスが子ザルを狙っていたことに強く反応したようでした。

また、ゴローは面倒見のよい一面も持ち合わせています。メスザルや子ザルがゴローに背を向けると毛づくろいをマメにしています。

現在、高崎山のサルの中で1番存在感のあるサルです。



「ヤケイ」について

子育てがんばる！

6月8日にヤケイがメスザルを出産しました。ヤケイは、これで3度目の出産となりました。5才の時にオスザル、7才の時にメスザル、そして今回10才での出産です。

最近のヤケイは、表情や行動が穏やかになりました。以前は他のサルが少しでも近くで餌を拾ったり、気に入らないことがあると、すぐに威嚇したり、咬みついたり攻撃的な行動が目立っていました。今でも他のサルに攻撃をすることはありますが、以前ほど厳しくはありません。(右へ続く→)

(→) ヤケイの子育ての様子を見ていると、我が子がよちよち歩く姿を見つめる視線に慈しみを感じます。我が子が他のサルとのトラブルに巻き込まれないよう、ヤケイは注意深く見守っているようです。

B群第1位だった頃、ヤケイは自分が上位なのだと言わんばかりに尻尾を上げて園内を歩き、オスザルたちは、そんな彼女から退くように距離をあけていました。しかし、そんなヤケイも今では中心部にいることが少なくなりました。

ヤケイは「ゴロー」の存在をいつも気にしているように見えます。エサの時間は、サル寄せ場の端の目立たない場所で餌を拾っています。ゴローが、メスザルから毛づくろいを受けていると、ヤケイは、少し離れた場所からそちらを向いて「ゴッ、ゴッ」と低い声を発します。それは《メスザルにそこをどきなさい。》ということと《ゴローに毛づくろいをしてよいのか?》と言っているようです。ゴローがヤケイに背を向けて毛づくろいを許せば、ヤケイはゴローの毛づくろいに行きます。

ヤケイは子育ての傍ら、ゴローとの関係を上手に築いています。

禁断の恋～群れを越えて～ B群のオス「ゴロー」とC群のメス「カスタード」の恋

高崎山の11月頃から3月頃までの恋愛シーズンでは、同じ群れの中でオスザルとメスザルが自由に恋愛をします。

そのような中、3月14日、ゴローの隣にC群のカスタードというメスザルがいました。私たちスタッフは目を疑いました。通常、B群のサル達は違う群れのサルが近寄るだけで、皆で攻撃し追い払います。

しかし、ゴローの彼女の座についたカスタードをB群のサルたちは、追い出すことができなかったのです。その日、ゴローとカスタードは終日仲睦まじく過ごしていました。

B群のサルたちが山へ引き上げる17時頃、カスタードはゴローと共に山へ引き上げて行きました。

翌日も、カスタードはゴローと山から下りてきました。午前中は2頭で仲良くしていましたが、午後になるとカスタードの姿はB群の中にはなく、カスタードを探しましたが見つかることができませんでした。

次の日、C群の中に何事もなかったようにカスタードがいました。夫婦関係を作らない二ホンザル社会の恋愛は、熱しやすく冷めやすいのでしょうか。わずか2日間の禁断の恋でしたが、「群れを越えて」という危険を冒してまでゴローに恋したカスタードに、感動させられました。



(左) C群カスタード (右) B群ゴロー



待ってるよ！

熱中症対策万全で
会にきてね～！

